

J O M A 通信

Japan Overseas Missions Association

海外宣教連絡協力会公報
No.42 発行者/ 森 正 義
海外宣教連絡協力会事務局
東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル ー PBA事務局内

JOMA宣教セミナー・分科会発題

「宣教師の興起と訓練」

平 位 全 一 (I G M)

序 文:

A 「宣教」を、どのように定義するかによって、この主題へのアプローチは当然、異なってくる。

1 ある人々は「宣教」を「伝道」と同義と考え、只、その活動の場が「国外」か「国内」か（より正確には「異文化圏」か「同一文化圏」か）によって、

- a 「異文化圏」でなされる「伝道」を「宣教」と称して、
- b それを「同一文化圏」でなされる「伝道」と区別する。

2 ある人々は「宣教」は、「伝道」によって意味される活動より広範な活動を包含し、いわゆる「伝道」プラス「医療、教育、救済、、、」と言った「伝道」への支援的な活動を含めて「宣教」と称する。

- a また、更に言うならば、こうした活動を「伝道」への「支援的」活動と位置つけることも論議を呼ぶであろう。
- b 救済などに重荷を持つ人々は、そうした活動を「宣教=伝道」への支援的な活動とは見なさず、「福音の宣証」（伝道）と「社会的責任」として、それらを教会の基幹的な奉仕の2分野と捉えている。

B マタイによる福音書28章の締め括り部分に見いだされる「主イエスの宣教の大命令」は、宣教の諸問題にアプローチするに際して、それが主イエスの遺言的なことばである故に、一つの大切な規範を示している。この命令の中心が「あらゆる国の人々を弟子と」することであれば、

1 「宣教」を「伝道」と同義において理解・定義しても間違いではないであろう。その使い分けは、既に示されたとおり、働き場の相違から来る異文化との取り組みの問題による。

2 「宣教=伝道」に伴う多様な活動は、「宣教（弟子造り）」に対して、「宣教」活動そのものというより、それに対して準備的、補強的と考えられよう。

- a 準備的というのは、宣教・伝道に対して、こうした活動が、初期の日本プロテスタントの宣教において見られたように、直接的な伝道、救霊、教会形成への道を備えるという意味で「準備的」であり、
- b 補強的というのは、宣教・伝道活動と同時的になされる時、そうした活動が、宣教・伝道の目的を達成するのを助け、強めるという意味においてである。

本論 I ー 宣教師の興起

A 宣教師の興起における最大の点は、教会のいのちが溢れているかとの点であろう。過去の宣教の歴史は、教会が御霊のいのちに満ち満ちていたときには、宣教への関心が高まった。教会全体の霊的な高揚のための努力なしに、宣教師の興起の問題に取り組むことは空しいことである。

B さて、この「宣教師の興起」について考察するとき、超教派の宣教団体の場合と一教派における場合と、多少異なる面があることを覚えなければならぬ。共通点は後述することにして、

1 超教派の宣教団体の場合：

- a その宣教団体を支援する各教団・教派、乃至、教会との関係の強化が最重要事となろう。ある教派に所属する人材を、その所属教団の意向に反して引き抜くような形での人材確保は、長続きする宣教師興起の道を閉ざすことになる。
- b 超教派の宣教団体の場合、どうしても「個人的」な宣教への重荷・関心が主体となって宣教師の興起、派遣の問題に取り組むことになる。宣教団として提供しうる奉仕の場、形態、資格などに関する情報を豊富に提供することが大切である。

2 一教派（乃至、教派内の宣教部門）の場合：

- a 個人個人への主の「導き」を主体として、宣教師の興起の課題と取り組むのか、
- b または、個人への「導き」に主導権をおかず、それを重んじつつも、キリストのからだである教会が主導権を握り、その世界宣教の戦略として、召された人々の人材配置（そして、それに伴う経済）に取り組むのと、二通りの取り組み方が考えられる。

3 振り返って見るに、

- a 従来は、典型的に前者に焦点が合わされていた。ここに「宣教師としての召命」という表現をしばしば耳にするが、聖書的な概念では「召命」は「働きへの召命」であって、「何処へ」という問題は「聖霊の導き」に属する問題であることを、しっかり弁えておく必要がある。
- b ここにおいて、
 - ・「働きへの召命」、「伝道職への召命」は、生涯的であり、
 - ・「ある特定の処、国への導き」は、必ずしも、生涯的とは言えない。むしろ、一時的（その時、その時のもの）であろう。

4 しかし、その従来のパターンではなく、教会に与えられた宣教のヴィジョンに従って、世界中の「主のブドウ園」へ、人材を、また、それに伴う経済的な支援を、割り当てる形態での宣教師派遣が必要とされている。

- a この後者の場合、その教会観が大きく関わ

ってくる。日本の教会が、国外での働きにも、（付随的に）従事しているといった教会観なのか、

- b それとも教会が、世界大の視野をもって、世界宣教を教会の生命的な活動、根幹的・不可欠なものと捉えて取り組むのとは、大きな相違が将来的には生じて来よう。
- c ここにおいて「伝道職への召命」の理解が、「働きへの召命」であって、「全世界」をその働き（福音の宣証）の対象としており、地域性を有しないとの理解が大切である。
- d こうした理解を持った場合、「宣教師の興起と訓練」という課題は、完全にはいえないまでも、多く「伝道者の興起と訓練」という課題に還元される（異文化との取り組みを除いては、、、、）。

C 超教派、教派、いづれの立場に立って考えるにしても、「宣教師の興起」のために：

- 1 世界宣教が、クリスチャン・教会にとって、選択的な活動ではなく、教会にとって欠くことのできない使命であるという理解を、彼らの間に浸透させる努力・工夫し続けること。
- 2 国外宣教に関する正確で、より豊富な情報を、教会・クリスチャンに提供し続けること一どのような働きがあるのか、その働きに参与するための資格・条件は、、、。
- 3 あらゆる世代のクリスチャンに、宣教への参与の機会を示して、挑戦を投げかけ続けること。
- 4 宣教師としての生涯を送るに際して、いろいろ考うる不安を排除するため、教会として、そうした課題に取り組むこと一健康管理、子女教育、引退・老後のこと、、、。

本論Ⅱ 一 宣教師の訓練

「宣教師としての訓練」について考えるとき、しばしば、その土台となる要素についての言及が省略され、希薄になる傾向性を有している。ところが、実際は、そうした面が、宣教師の生涯・奉仕の有効性を大きく左右する要素なのである。

A クリスチャン・ライフに関わる訓練

1 資格を論じる場ではなく、訓練に関わることに
ついて語っているので、罪の赦しや新生とい
った基本的な霊的経験の明確さについては言及
しない。それを有したクリスチャンが、どのよ
うにして、クリスチャン・ライフを、霊的・道
徳的に力あるものとするか、に関わる訓練を身
につけているか、即ち、恩寵の手段（集会出席、
聖書通読、祈り、証し、献金）の実践に関わる
訓練である。

2 様々な立場、意見、性格の人々と、協調して
やっていけるための訓練—この面は、前記にあ
る如く、忠実な教会生活・奉仕を通して、訓練
される。

これは、また、感情のコントロールに関わる
訓練とも言える。様々な人々と交わることによ
って、感情を刺激されたとき、どのように反応
するか、自分を冷静に見つめる必要がある。感
情的な上がり下がりが激しい場合は、宣教師生
涯を諦めた方がよいであろう。

こうした面での訓練は、しばしば、幼児時代
の家庭の感化が大きい。

3 忠実な教会生活に関わる訓練—宣教の目的が、
救霊と教会形成という点に集約されるものであ
れば、宣教師が正しい「教会観」を有している
ことの意義は、強調しても強調しすぎること
はない。そして、その「教会観」は、神学的な知
識に止まらず、実践され、実証されたもので
あるべきである。

4 事務処理、会計管理の能力に関する訓練—宣
教師は、その支援団体に責任を負う。支援を受
けていて、会計報告を定期的に出さない、通信
が書けないという状態では、問題が生ずる。こ
の実務的な面での訓練、即ち、実務的な知識と
自らを律する訓練が必要とされる。

B 伝道者生涯に関わる訓練

1 後に「D」項で言及するが、どのような専門
分野での宣教活動に携わろうと、宣教の目的そ
のものが、「伝道」、即ち、キリストの弟子た
ちの群の形成、その教育、訓練にあるので、す
べての宣教師は、この面での訓練を身につけて
いることが望ましい。私たちと連盟関係にある

超教派の宣教団体では、最低2年間の神学教、
また訓練を、その宣教師たちに要求している。

2 殊に、個人伝道における実際的な知識・スキ
ルを学んでいることが、宣教師にとって大切
である。確かに、宣教団はチームとして、「人
々をキリストに連れゆく」という一つの目的に
向かって努力し、協力するものであるが、ひと
りびとりの宣教師が、明確な使命意識を持って、
それにあたることなしには、チームとしての
目的達成も怪しげになってくる。

C 異文化との取り組みに関する訓練

1 言語習得の訓練—異文化問題の最大の難関は、
コミュニケーション・ギャップで、これは人々の
言語を身につけることによって、大幅に緩和さ
れる。宣教師にとっては、どのような奉仕の形
態をとるにしても、言語の習得は必須であろう。

a 日本人宣教師にとっては、先ず、英語の習
得から始まるといって良い。英語以外の奉仕
に要することばの習得も、英語を媒介として
行われるし、

複数の宣教師たちと共労する場合、しばし
ば、英語が共通語であるからである。また、
宣教に関する諸問題を討議する国際会議も英
語でなされる。

b 言語習得に要する期間を、無駄な期間と考
えてはならない。しばしば、そのために用い
られる1、2年は、異文化の環境に軟着陸す
るための大切な期間である。学ぶものの立場
にあって、その姿勢で、様々のことに直面し、
それと取り組むことは、大切なことである。

2 ただ、言語習得に関して、以前のように宣
教師生涯が、生涯的、または、可成りの長期で
ある場合と、現代のような、ヴィザ取得のため
などの事情から、必ずしも、長期の奉仕が可能
でない場合とでは、状況が異なってくる。

a 言語習得に掛ける年月と奉仕に用いられる
歳月とのバランスが求められる。

b 恐らく、この問題への取り組みの一つとし
て、主の導きを早いうちに捉えて、自分の人
生目的をしっかりと定め、それに従って国内に
いるうちから言語習得のために、努力を重ね
ることが考えられるであろう。

3 カルチャー・ショックは、必ず体験する。異文化の中に飛び込んでゆくのであれば、不可避な事柄である。それを軽減し、奉仕への障碍とならないようなかたちで通過する工夫が必要である。

- a 宣教師を目指す人々は、日本人以外の人々と接する機会を持つこと。
- b そうした類の書物に触れておいて、カルチャー・ショックの何たるかを、知的であっても弁えておくこと。
- c 宣教留学といった、目的の定まった外国生活をするによって、宣教師としての立場

ではなく、学ぶものの立場で、それに直面すること。

- d 様々な事柄に関する相違に直面するとき、相違自体を強調せず、その違いの背後にある理由を、学ぼうとする姿勢を維持すること。批判的スピリットを和らげること。

D 専門分野における訓練

どのような専門分野において宣教活動に参加するかによって、身につけるべき専門知識は異なってくる。今回そこまで立ち入って論じる時間も、また、十分な資格もない。これは次の機会に、他の方に、委ねたい。

以 上

1994年度・総会報告

I デヴォーション：

- A 司会：福田崇師（WYC）
祈禱：中田智之師（南米）
- B 奨励：牧野直之（OMF）
使徒 8：1-8より。

II 報告・その他：

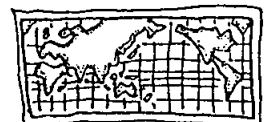
- A 点呼・オブザーバー紹介
- B 議長・書記選出
 - 1 議長—森正義師（SU）
 - 2 書記—岩崎喜太郎氏（PBA）
- C 前回議事録承認
- D 報告
 - 1 各団体報告
 - 2 1993年度活動報告—平位全一師（事務局）
 - a JOMA通信に関し
 - b JOMA世界地図に関して
 - 3 会計報告（別紙）—小平牧生師（基督兄弟団）
- E 以上報告を承認する。

III 議 事：

- A 1994年度計画案承認
 - 1 JOMA通信発行一年2回発行の予定
 - 2 青年宣教大会—役員会において検討継続のこと。
 - 3 MK会合—（同上）
- B 新規加盟団体の加盟承認—日本イエス・キリスト教団、海外宣教局
- C 1994年度予算案承認（別頁）
- D 役員会出席交通費—役員選出団体負担の申し合わせ確認
- E 役員改選
 - 1 継続—福音自由基督兄弟団
 - 2 新規—聖書同盟太平洋放送協会
- F 会費値上げの件—1995年度より、月額 ¥5,000に一承認。

G 規約改正

- 1 第2項—事務所：「本会は事務所を役員会の指定する所に置く。」とし、以下を規約文から削除する。
- 2 第4項—目的と事業：「日本の福音的諸教会」の次に「日本の宣教部門、並びに、そのような教会を」を挿入し、「背景とした宣教団体が、（以下同文）」に続くようにする。
- 3 細則（3）—事務所の所在地：この項目を削除し、事務所の所在は、他に明記する。
- H 事務所に関するPBAとの契約の件。
- I 閉会—祈禱：稲垣博史師





【会費の納入をよろしく】

J O M A 役員会

1994年4月11日に開催されたJ O M A総会の後、本年度の役員分担が、以下のように決定した。

- ・会長：森 正義師（聖書同盟）
- ・副会長：谷下信之師（日本福音自由海外宣教委員会）

・書記：岩崎喜太郎氏（太平洋放送協会）*

・会計：小平牧生師（キリスト兄弟団海外宣教部）

尚、太平洋放送協会の場合は、同協会の他のメンバーに代わることがあり得ます。

太平洋放送協会のご好意によって、今年も、昨年同様、事務局を同協会内に置かせていただき、P B A総務部長・中川氏の下承・監督の下に、P B A事務局の人材（主として、中村姉）が、事務処理に当たってくださることになっています。

【新規加盟団体紹介】

日本イエス・キリスト教団・海外宣教局

住 所：近江八幡市多賀町 506-1

責任者：委員長一横田武幸師

海外宣教局長一北尾欣三師

きな関心事である、、、（後略）。」（1967年）。

支援宣教師：

略 史：海外宣教の働きに関して。

- ① 1954年、当時の教団委員長・小島伊助師の北米、南米諸教会の安問奉仕に始まる（1ヶ年）。
- ② 海外宣教局設立—1968年 3月の第18回教団総会において。
- ③ 初代局長、小豆正夫師の論説の一部に以下の文章がある。「今年の教団標語に海外宣教が入っていることは教団の画期的飛躍と考える。創立以来、日本人による自給教会として成長してきた我らは今や宣教精神を発揮して海外にまで及ぼうとしている（中略）。

まず第1に知っておくべきことは海外宣教は福音そのものの持つ性質だということである。私どもがどんな風に宣教してゆくかという問題と共に、神がこの福音自体の使命である世界宣教のために私どももどんなに用いられるかが大

- ① 片山和郎宣教師—台湾：(1969)1971--1984
- ② 寺山タツヨ宣教師—台湾：1970--1973
- ③ 森本正之宣教師—インドネシア：1980--1988（アンテオケ宣教会を通して）。
- ④ 藤原宏昭宣教師—台湾：1982--1986（アジア宣教会を通して）。
- ⑤ 二宮一郎宣教師—台湾：1987--現在（台湾基督長老教会との宣教協約の許で）
- ⑥ 森 敏技術宣教師—ネパール：1982--現在（アンテオケ宣教会を通して）。
- ⑦ 佐伯修一宣教師—アラスカ：1990--現在
- ⑧ 渡辺由美子宣教師—北米（日本人教会）：1991--現在

その他にも、海外団体との交流を進めており、今後、グローバルな進展が期待されている（以上、加盟申請に当たって提出された資料から略述しました）。

J O M A世界宣教地図のご注文を！（¥200/一部）：TEL. 03-3295-4921, FAX 03-3233-2650へ、どうぞ。

JOMA実務者懇談会報告

JOMA総会後の4月11日（月）夜～12日（火）午前の2日間にわたって、市ヶ谷ルーテル・センターを会場として、「JOMA実務者懇談会（セミナー）」が開催されました（出席者は、11団体から20名でした）。

【懇談会とその発題者】

I 「宣教師の子女教育」

- ・福田 崇師（WYC）
- ・梅田 昇師（IGM）

II 「宣教師の興起と訓練」

- ・平位全一師（IGM）
- ・奥山 実師（MTC）

III 「宣教師の健康管理」

- ・牧野直之（OMF）

今回の「JOMA通信」は、この「実務者懇談会・セミナー」の発題を中心に編集しました。



1993年度決算・1994年度予算

【収入の部】

	1993年予算	1993年決算	1994年予算
会費	816,000	816,000①	864,000②
献金	150,000	131,268	150,000
雑収入	350,000	93,509	350,000③
地図		43,110	
書籍		42,200	
その他		8,199	
前年度繰越	250,000	310,438	112,633
合計	1,566,000	1,351,215	1,476,633

注：

- ① ¥48,000X17団体の会費
- ② ¥48,000X18団体の会費
- ③ JOMA地図収入（¥200/一部）
- ④ JOMA地図印刷代金
- ⑤ JOMA通信：年2回発行：印刷代

【編集後記】

★ 加盟団体が18になりました。久し振りに改訂された「JOMA世界宣教地図」には、この他の福音的な教会から派遣されておられる日本人宣教師が掲載されています。

★ 1995年度から、今回の総会の決定を受けて、会費が¥5,000（月額）になります。ご協力をお願いします。

★ 会費の納入、また、常時のご連絡はPBA・中村姉へ。緊急のお問い合わせ・ご連絡は：

・平位全一師へ
インマヌエル東大和キリスト教会
TEL. 0425-64-1498, FAX 0425-64-1499

【支出の部】

	1993年予算	1993年決算	1994年予算
セミナー費	50,000	6,770	50,000
文書費	450,000	252,240	300,000
ハンドブック		204,960	190,000④
地図・書籍		47,280	110,000⑤
役員会費	70,000	14,250	20,000
事務所費	600,000	670,000	600,000
事務費	250,000	131,758	200,000
総会費	80,000	163,564	100,000
青年宣教会準備金	50,000	0	50,000
予備金	16,000	0	156,533
小計	1,566,000	1,238,582	1,476,633
繰り越し	0	112,633	0
合計	1,566,000	1,351,215	1,476,633